

かがやく

ハーモニーひたちなか

第8号
2010.3発行
編集/発行
ハーモニーひたちなか
ひたちなか市女性生活課

共に楽しみ、共に学ぶ！
ハーモニーフェスタ2009

「ハーモニーフェスタ2009」を平成21年11月14日・15日に「性別じやなく人として輝こう」をテーマに、ワークショップ勝田で開催しました。1日目の14日は男女共同参画に関する作品表彰や事業所表彰、講演会を行いました。また2日目の15日には「ハーモニーひたちなか」所属団体の活動を紹介します。また2日目の15日には「ハーモニーひたちなか」所属団体の活動を紹介します。また2日目の15日には「ハーモニーひたちなか」所属団体の活動を紹介します。



▲ 講演会
親業訓練インストラクター 安のり子さん



▲ 寸劇



▲ みんなで歌おう



◀ 布のリメイクコーナー



表彰作品

最優秀作

① みとめあい たすけあい みんな仲よく 生きてゆこう 佐藤寿々花さん

優秀作

② チャレンジ精神で あなたの知識とおもいやり 活かそう男女共同参画で 田所 一男さん

③ 深めよう 男女の絆で 明るい社会 渡邊 慶斗さん

佳作

④ 個の力 社会に生かし 丸い世に 渡邊 妥夫さん

⑤ 意識せず 手を取る男女 理想の社会 添田 一昭さん

▼ 作品表彰



1日目

講演会 講師 宍のり子さん（親業訓練インストラクター）



もっと聴きたい！ こどもの心の声

～楽しく子育て、親育て～

講師の安さんは現在高校生の息子さんがいます。幼稚園で勤務したことのある安さんですが、息子さんが3歳の反抗期に、自分の子どもの子育てに悩みを持っていた頃もあったそうです。その様な時に安さんが出会ったのが「親業」だったということでした。

親業は「子どもが育つ上で親がいかに関わるか」という親の側に焦点を当て、子育てを見直していくことだそうです。子育てが「ひとりの人間を産み、養い、社会的に一人前になるまで育てる」ことだとすれば、手がかかる幼児期だけでなく、思春期の頃が「子育て」の本番とも言え、そこに親の役割があるというお話をされていました。親世代はもちろん、孫育てに関わっている年代の方もたくさん参加しており、全員が熱心に耳を傾けていました。

例えば、「疲れた」自分を表現するのに、子どもに「あっち行って」といったらどうでしょうか。子どもは自分を「否定された」「無視された」と受け止めてしまうでしょう。

その場合「お母さん疲れちゃった」と言えば子どもは「お母さんは疲れているんだ」と受け止めることができるのです。つまり「わたし」を主語にすることで相手に自分の心を素直にそのまま伝えることができるのだということでした。

また、聴くことは質問とは違うとも話されていました。「聴く」ことは相手が問題を抱えたときに聴くということ。親が子どもから情報を得ようとする時にするのは「質問」でしかないそうです。そこで「わたし」を主語にして子どもに語りかけ、能動的な聴き方をすると「子どもの心の声」が解るようになるとのことでした。

講演会では、安さんの話を聞くだけでなく、参加者全員が二人一組になり、親子役割を決めて演じることによって、お互いの気持ちを理解するような体験をしたり、安さんが開設されている託児所での事例などから、子育てについて考えていきました。そして、安さんは子どもの心の声を素直に聴き、親も自分を主語にしたメッセージを送ることが大切であると結んでいました。

2日目

フェスタ参加団体のレポート



もったいない！ 布のリメイクにチャレンジ パートナーシップイコール会

“もったいない！”をテーマに古布を使った作品の展示とリメイク体験を行いました。フェスタでは多くの人に参加していただき、みんなで作業を分担して新しい作品が出来上がりました。そして初めて出会った人と、同じ場所で同じ時間を共に楽しむことが出来ました。



ベトナムスタディーツアー 子どもの家訪問 WING

ベトナム・フエ市にあるストリートチルドレン約60人が暮らす「子どもの家」を平成21年2月にWINGの会員が訪問しました。私達はこのときの体験と施設を運営する小山道夫さんを是非一人でも多くの方に紹介したいと思い、写真を使った発表をすることにしました。「子どもの家」を運営する小山さんは、単身現地に住んで16年になり、ストリートチルドレンの教育やベトナム人スタッフの養成、地域住民の雇用、日本とベトナムの若者の交流などに今も熱心に取組まれています。私達にとって、小山さん達と数日行動を共にし、施設の子ども達と触れ合えたことは得がたい体験であり、この体験をこれからも伝えていきたいと思いました。

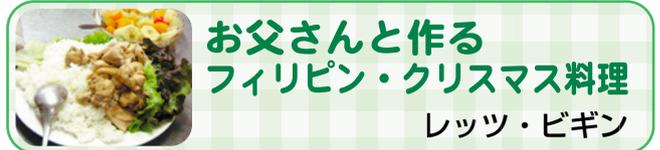


寸劇「親の介護 夫婦なら頑張れる」 青春会

寸劇「親の介護 夫婦なら頑張れる」に携わらせて頂き、改めて介護の大変さを実感しました。同時に、今までは介護する側だけが大変だと思っていましたが、介護される側も、不安や恐怖心など、苦痛を伴う辛い日々であることに気がきました。

介護を取り巻く現状の厳しさなど問題はさまざまだと思います。「介護のために仕事が続けられない」「この先何年続くのだろうか」などの不安や精神的ストレス・経済的負担……でも大切なことは、どうお互いが向き合うかだと思います。

私も近い将来、義母と両親の介護が待っています。やがて間違いなく来るであろうその時は、今回の寸劇を教訓に、家族で協力し助け合いながら、義母・両親への感謝の介護ができるよう、「付き添える」人でありたいと思います。



お父さんと作る フィリピン・クリスマス料理 レッツ・ビギン

ちょっと不釣合いのエプロンを着けたお父さんたちが、真剣に味見しているそばで、「これ、どうやるの？できない…」と、缶きりを手にとまどっている子ども達。和気あいあいの中にアドボ（※）は無事完成！「美味しいねエ…」「家でお母さんに作ってやろう…」笑顔でおしゃべりしている姿に、企画した私たちも大満足！「来年もぜひ参加したい…」の皆様の声に大きな手ごたえを感じたフェスタでした。

※アドボ：フィリピンのクリスマス料理



作ろう！飛ばそう！ 紙ヒコーキ

火曜会



私達グループは、来場者がいろいろな形の紙ヒコーキを作り、飛ばして楽しんで頂けるような企画をしました。中でも海にいるイカの姿に似た「イカヒコーキ」は、その形が珍しく、出来上がった時には作った子ども達も、「本当に飛ぶのかしら」と少し不安に思っていたようですが、実際に飛ばしてみたところどれも大変良く飛び、親子連れに大人気でした。



あわてんぼうの クリスマスリース

レッツ・ビギン



今年のクリスマスリースは、“エコ”をテーマに作ってみようと思いました。家にある残り毛糸や布、古新聞、包装紙、松ぼっくり、どんぐりetc…長いこと眠っていたものが集まりました。それらの素材が、次々と子ども達の豊かな感性で作品となっていく様には、驚きと共に感動さえ覚えました。

国内研修～ハーモニーひたちなか～

1/30 行方市 茨城県女性プラザ

演題 100人の村 あなたもここに生きています
講師 池田香代子

講話では様々な出来事（犯罪、教育、貧困等）がどの様な割合で起こっているのかを、世界の人口を100人としてお話していたので、とても心に、頭に入ってきました。更に、インパクトのある映像を交えて核問題についても話ししていました。

池田さんの活動に深く感動しましたが、特に「貧困と飢餓をなくす方法は、発展途上国の女の子を学校に行かせること」という言葉が強く印象に残りました。

みんなで歌おう

新日本婦人の会
ひたちなか支部



アコーディオンとギターの伴奏に合わせ、歌声を会場いっぱいに響かせました。お母さんの手を引っぱって参加し、一生懸命歌っている子ども達の姿もありました。みんなと一緒に歌うことで、楽しく触れ合えたひと時だったのではないのでしょうか。





うちの男女共同参画

シグマテクノロジー (有)

ひたちなか市では、毎年、男女がともに働きやすい職場作りに取り組んでいる事業所を表彰しています。そして、今年度選ばれた事業所は「シグマテクノロジー株式会社」。ここは従業員5人の会社であり、女子社員はたった一人。一体どんな会社なのだろう…。興味津々で女性従業員の本間恭子さんのもとへインタビューに伺いました。

Q：何をされている会社なのですか。

A：各種機械の設計と製作です。常に新しいものを模索し、想像を形にしていく無から有を生み出す会社ですね。

Q：社員の皆様は専門技術者の方ですね。

A：そうです。でも、私は入社後、営業からカタログ作りまで一から教わりました。CAD(2次元、3次元製図ソフト)の勉強もしました。

Q：えっ、それじゃ入社してから国際展示会でプレゼンターを務めるまでになったのですか。(彼女は昨年、半導体装置の国際展示会で自社製品のプレゼンを受けもって成果をあげている)

Q：展示会の後、引き合いが多いそうですね。どんなお気持ちでしたか。

A：自分に自信が持てますし、社会との関わりを強く感じました。

Q：この事業所は、働き方も様々と伺いましたが。

A：テレワークの方もホームオフィスの方もいます。

Q：そうした働き方を本間さんはどうぞ覧になりますか。

A：生活に応じた様々な仕事のスタイルがあれば、女性の社会進出は容易になると思います。

Q：今回、働く環境の整った会社として表彰されましたが、本間さんから見てそれはどんなところですか。

A：一番は男女の差別が全くないこと。人としての能力を評価してくれるところです。また、有休の外に子どもの病気、授業参観、親の急病などの休暇が認められていますので、家庭との両立が出来たと思っています。

Q：でも、お子様もいらっしゃるし大変な時もあるでしょう。

A：そうですね。私の住んでいる団地はご近所が仲良しで大変助けられています。

Q：子供さんに仕事のことはお話をしますか。

A：よく話をします。親が社会とどう関わっているか知ってほしいと思っていますので。国際展示会の時も『お母さん、今日は何台売れたの…よかったね。』なんて話題も出ます。

いきいきと話す本間さんを見ていると、彼女の努力と積極性が職場の男女共同参画の後押しをしているのを感じます。

"働きやすい職場は人を育て、育った人は会社を育てる"そんな思いを強くしたひと時でした。



編集後記

「夕食は何にしようかな」というのがいつも私の悩みごと。そうだ、土曜日はお好み焼きにしよう!

我が家では、お鍋よりもホットプレートで作る料理のほうが、パパはやる気が出るみたい。これも男女共同参画よ(笑)パパ、頼みますね!



お知らせ

男女共同参画センター

☆図書コーナーに新しい本が入りました。是非ご利用ください。
☆男女共同参画センターでは各種講座を企画・開催しています。

問い合わせ先

電話・FAX

029・354・0167

Eメール

paucou82@junco.ne.jp